

病防第73号
平成29年9月14日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成29年度病害虫発生予察注意報第1号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成29年度病害虫発生予察注意報第1号

農作物名 カンキツ類（極早生温州、早生温州）、ナシ、カキ等
病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 9月中旬以降
- 3 発生程度 平年比 多

4 注意報発表の根拠

- (1) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、合志市、宇城市、天草市で8月第5半旬から急激に増加し始めた。9月に入り一旦減少したが、宇城市では依然として高い水準が続いている。（図1、2、3）
- (2) ツヤアオカメムシの予察灯誘殺数は、地域でばらつきはあるものの8月から増加し、宇城市では9月第2半旬の誘殺数が平年の約5倍、天草市では2倍以上となっている（図1、2、3）。
- (3) ヒノキの球果に寄生している果樹カメムシ類成幼虫数は、8月上旬まで平年より少なかったものの、8月下旬以降平年並となっている（図4）。本年はヒノキの球果量が多いことから、果樹カメムシ類の発生量は多いと考えられる。
- (4) 果樹カメムシ類がスギ、ヒノキ球果から離脱する時期は、合志市、熊本市、宇城市では9月上旬、天草市では9月下旬と予想されている（平年29年8月14日付け、病害虫発生予察技術情報第4号）。既に、カキ、ナシの一部の園では被害が認められており、今後、果樹園への飛来が本格化する可能性が高まっている。

5 防除対策

本年は、果樹カメムシ類が多く、一部の地域では、球果からの離脱が始まっていると考えられることから、以下の対策を行う。

- (1) 果樹カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。特に、山間部や山沿いの園では、発生加害が多いので注意する。
- (2) 最新のカメムシ類の誘殺状況は、病害虫防除所HP (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>) に掲載しています。
- (3) 果樹カメムシ類は日没直後になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。

(5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

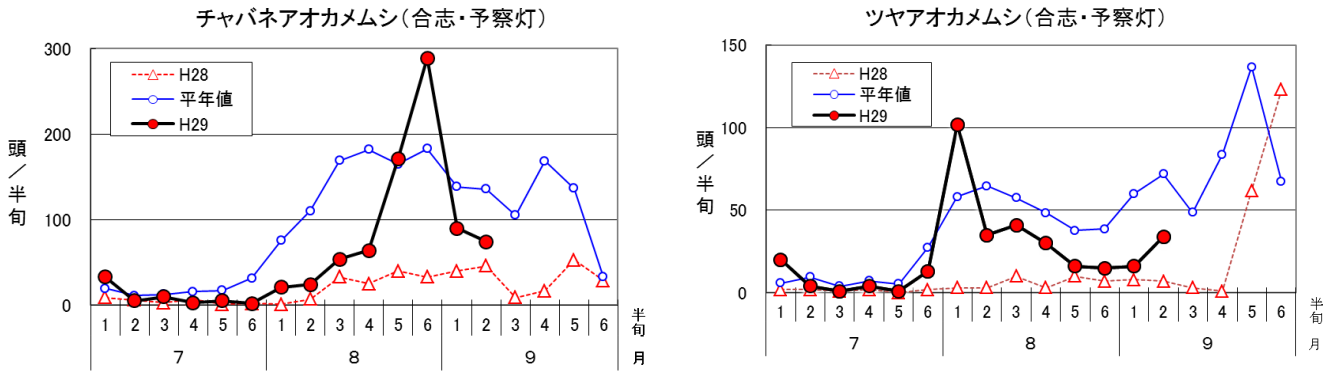


図1 合志市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：農業研究センター）

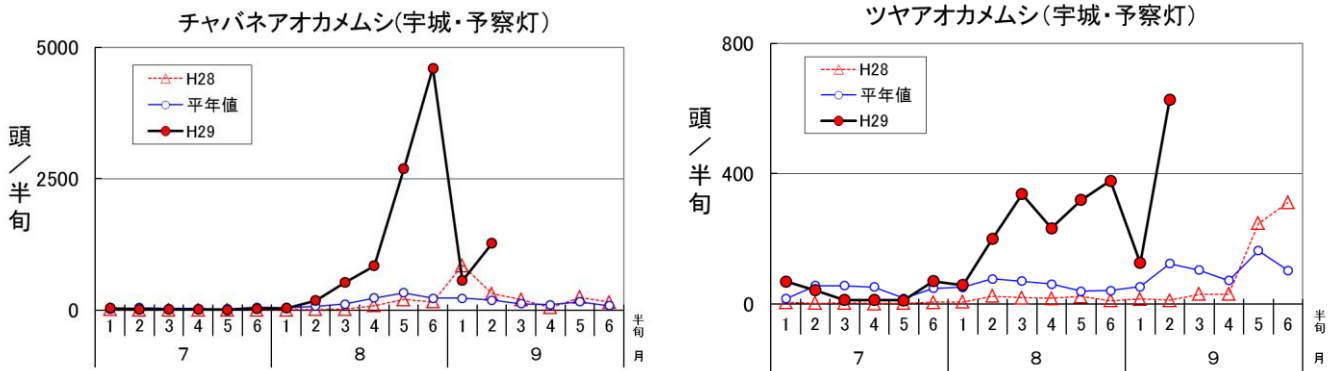


図2 宇城市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

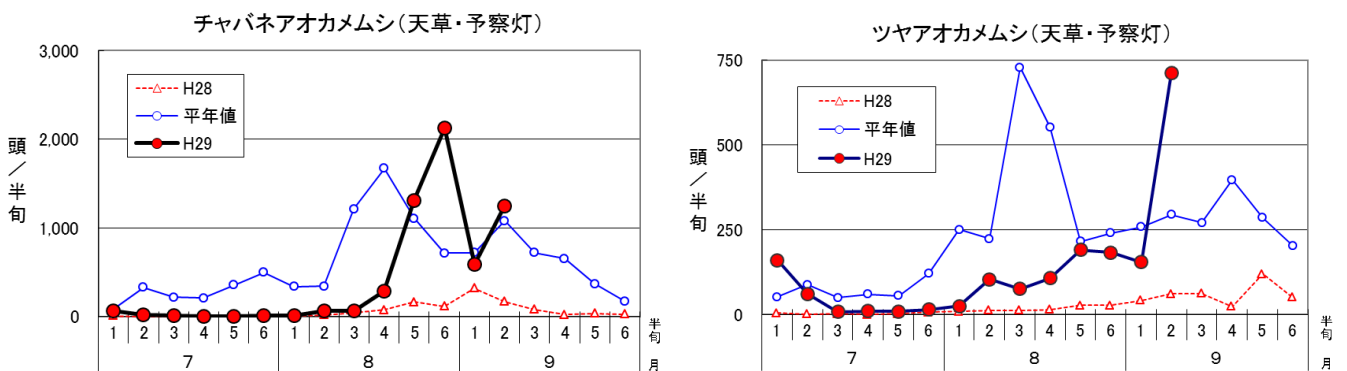


図3 天草市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

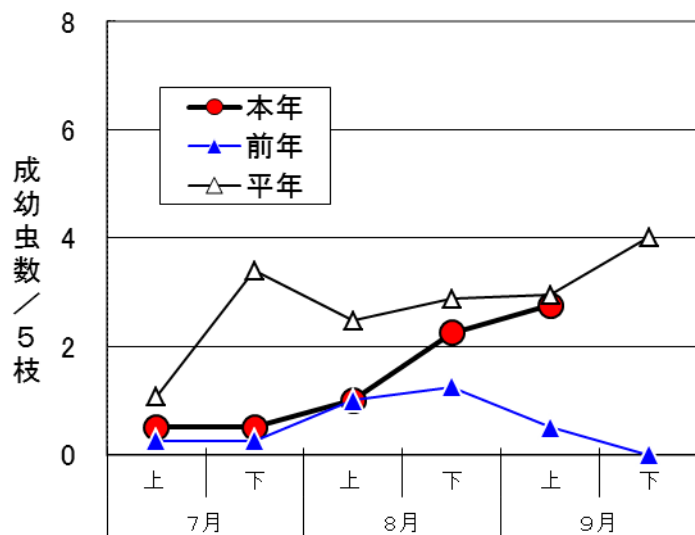


図4 ヒノキ球果枝におけるビーティング調査

※ヒノキ球果に網をかぶせ、たたき落とした果樹カメムシ類の成幼虫数(1地点当たり5枝の合計頭数)。
 ※調査地点は熊本1、宇城2、菊池地域1の4地点。

熊本県病虫害防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病虫害研究室 予察指導係)
 担当：斉藤、加賀山 TEL 096-248-6490